資料２

地域の明るい未来フォーラム in 東南村山

YAMAGATA CITY 山形市

地域の明るい未来に向けた山形市の取組について

山形市長　佐藤孝弘

令和8年11月19日

山形市の２大ビジョン

健康医療先進都市

人口あたりの医療資源が充実。山形大学医学部も立地し、重粒子線がん治療施設も稼働開始。「健康」「医療」をまちづくりの柱とし、山形市のブランド価値向上を目指す。健康寿命延伸が最大の課題。

2019年４月、中核市に移行し山形市保健所を設置することで基盤が整う。

文 化 創 造 都 市

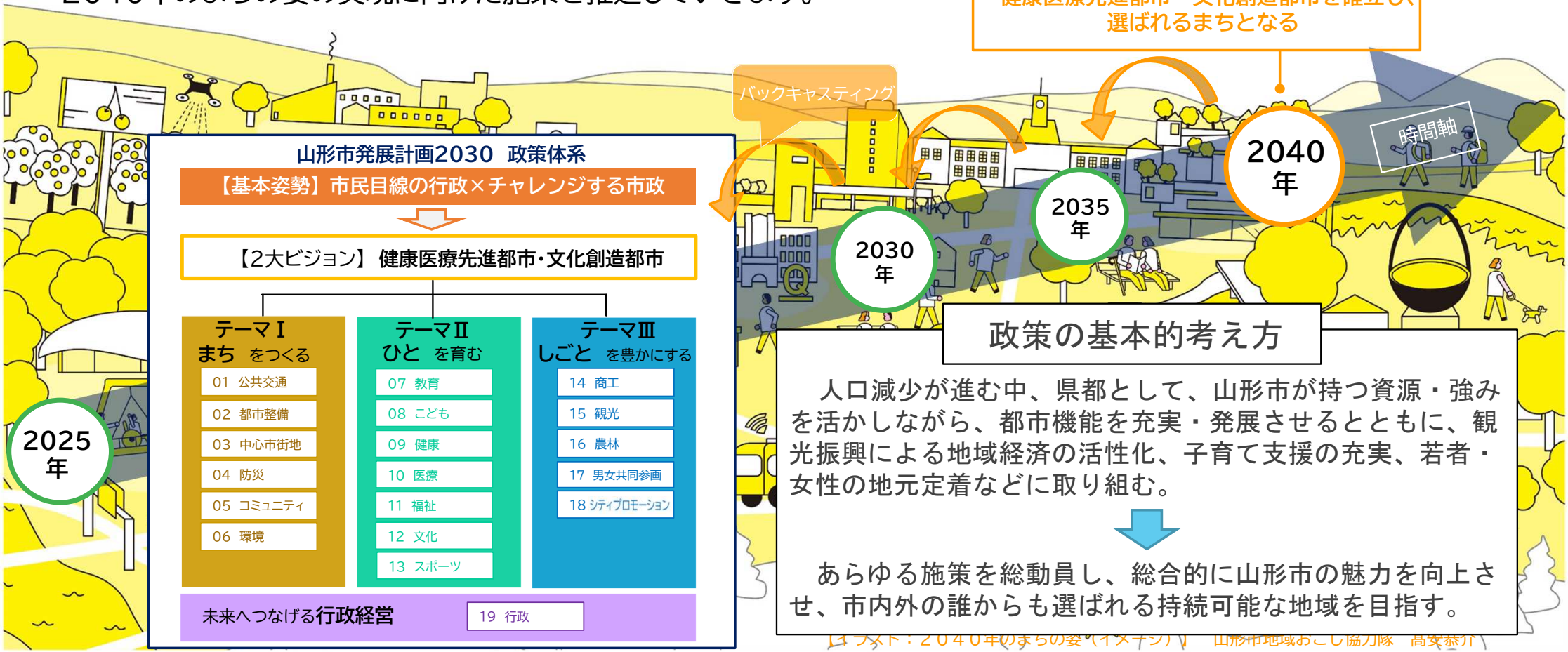
最上氏にはじまる城下町としての伝統文化とともに、山形国際ドキュメンタリー映画祭、山形交響楽団、東北芸術工科大学の立地など、もともと文化芸術活動が盛ん。2017年ユネスコ創造都市ネットワーク（Film部門）に加盟。文化の力を企業等と結びつけ、産業振興や雇用の確保につなげ、持続可能なまちづくりを目指す。

山形市発展計画２０３０

［計画期間：令和７年度 ▶ 令和１１年度］

○ 2040年のまちの姿の実現に向けた最初の5年間の取組を定めた計画です。

○ 3つのテーマとそれを支える行政経営に19の政策分野を位置づけ、
2040年のまちの姿の実現に向けた施策を推進していきます。



政策の基本的考え方

人口減少が進む中、県都として、山形市が持つ資源・強みを活かしながら、都市機能を充実・発展させるとともに、観光振興による地域経済の活性化、子育て支援の充実、若者・女性の地元定着などに取り組む。

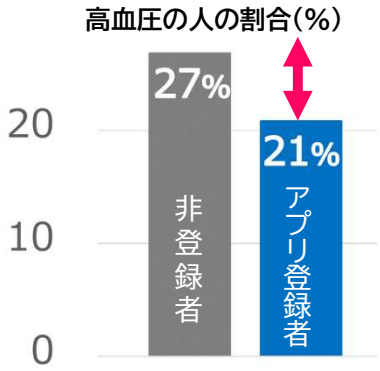
あらゆる施策を総動員し、総合的に山形市の魅力を向上させ、市内外の誰からも選ばれる持続可能な地域を目指す。

［イラスト：２０４０年のまちの姿（イメージ）］　山形市地域おこし協力隊　高安恭介

SUKSK(スクスク)生活の取組と成果

R8.3 市保健所シンクタンク研究事例
第52回山形県公衆衛生学会発表

市保健所シンクタンクによる研究の結果、
SUKSKアプリを使っている人は、使っていない人に比べ、健康診断の結果が良好な傾向でした。

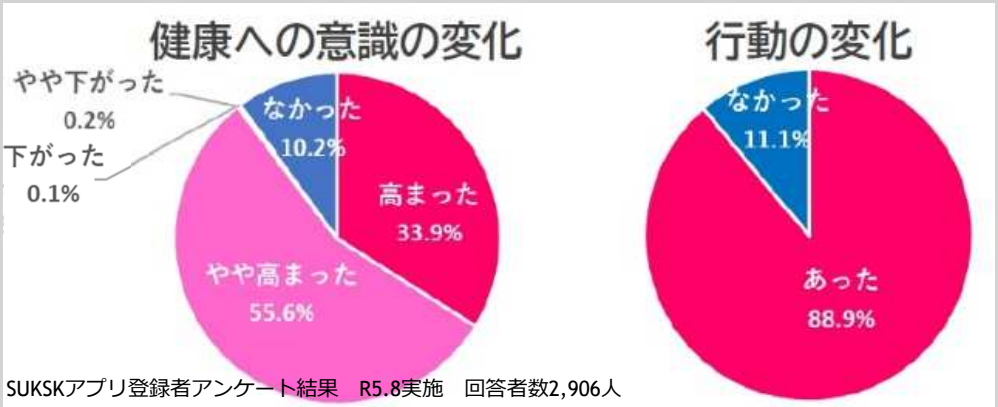


1 SUKSKアプリ登録者は、非登録者に比べ、高血圧が有意に少ない結果でした

2 BMI(体格の指標)、HDLコレステロール(血管を守る善玉コレステロール)においても、SUKSKアプリ登録者の方が健診結果が良好な傾向があることが分かりました



SUKSKアプリ利用者の約9割が「健康意識が変わった」、「行動の変容があった」と回答しています。



SUKSKアプリ登録者アンケート結果　R5.8実施　回答者数2,906人

「健康先進医療都市」のビジョンを掲げた様々な取組の結果、市民の健康寿命と平均寿命が男女ともにのびています。



文化創造都市の推進

■ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟

ユネスコが世界でも特色ある取組を行っている都市を８分野（映画、デザイン、伝統工芸、メディアアート、音楽、食文化、文学、建築（2025年新設））で認定

▶ 2017年国内初となる映画分野での加盟が認定

「やまがた創造都市国際会議」や「クリエイティブカフェ」等の創造都市推進事業を実施

■やまがたクリエイティブシティセンターQ１



・公民連携の手法により、創造都市の拠点施設として第一小学校旧校舎をリノベーションし令和４年9月1日にオープン

▶660,206人（R8.8月末時点）

・創造都市8分野に関するオフィスやショップが入居

■山形国際ドキュメンタリー映画祭（YIDFF）

YIDFF2025実績　入場者数：26,273人　応募作品総数：2,676本（135の国と地域から）

※入場者数、応募作品総数ともに過去最多

YIDFF2027開催日程　令和9年10月7日(木)～14日(木)　8日間

・ 1989年、市制施行100周年を記念し、アジア初のドキュメンタリー映画祭としてスタート

・ 2018年6月に 米アカデミー賞公認映画祭となる（ドキュメンタリー部門で日本初）

■山形フィルム・コミッション

・国内外の映像作品を誘致・支援し、観光や文化の振興、地域の活性化に貢献

・令和7年度の製作支援実績：28件（令和6年度：31件）

・主な支援作品　WOWOW「中島健人 映画の旅人」　TBS「バナナマンのせっかくグルメ」　三宅唱監督新作映画　等

山形交響楽協会との「オーケストラのある街」推進協定の締結（令和7年3月14日）

山形交響楽団のオーケストラ活動を通じ、文化創造都市を推進することを目的として締結

・市有文化施設で行う演奏会等の支援（山形市）

・文化創造都市の推進に資する事業への協力（山形交響楽協会）

・音楽の普及啓発と音楽文化の拠点形成（山形市及び山形交響楽協会）



市民会館の整備

昭和４８年に開館し、老朽化した市民会館を、
旧山形県県民会館跡地に移転整備していく。



【新市民会館の目指すべき姿】

①文化芸術活動の拠点の継承・発展
②賑わいの創出
③創造都市やまがたの推進
④周辺施設との調和
⑤感染症対策を備えた施設
⑥次世代のニーズへの対応
⑦災害への対応
⑧ユニバーサルデザイン・バリアフリー化

【施設概要】

大ホール（1,205席）、小ホール（300席）、スタジオ、展示ギャラリー、
会議室、交流ラウンジ、ドキュメンタリー映画フィルムライブラリー、防災備蓄倉庫　等

【今後のスケジュール（予定）】

令和７年度	設計（～令和８年８月）
令和８年度	建設（10月～令和12年12月）
令和13年度	新市民会館 グランドオープン



市役所１階の市民ホールにおいて、模型展示や説明動画の放映を行い、市民への事業内容の周知を図っています。

公共交通ネットワークの構築に向けて



５年間の基本方針

『「まち」「ひと」「しごと」を結び、すべての人の暮らしと地域の未来を支える公共交通の実現』

【公共交通ネットワークの構築に向けた各骨格の取組】

⇒第2期では、各交通軸の今後の方向性を明示し、「選択と集中」の視点で各交通軸を最適化していく。

鉄道

【大骨格（拡充）】

・需要創出策の展開と高頻度運行等による利便性向上の検討

・市南部への新駅整備に向けた取組の推進



（JR仙山線）

バス

【中骨格（拡充）】幹線となる路線バス・コミュニティバス（市街地循環型）

人口密集地域等における運行の高頻度化と交通結節点の整備に合わせた路線再編



（西くるりん）

連動

【小骨格（見直し）】その他バス

利用実態や相乗りタクシーの導入効果を踏まえ、時間帯や便数を見直すことで効率化



（コミュニティバス高瀬線）

タクシー

【神経系（拡充）】その他バス

・路線バスの見直しと連動し、効率化や「交通空白」解消のため、相乗りタクシーを市全域に展開

●第1期計画でのモデル事業の成果（相乗りタクシーの横展開）

相乗りタクシーは、「概ね3㎞圏内で複数の目的地に行ける」「ドアツードアの移動が便利」「運行時間に柔軟性がある」といった特徴があり、地区の移動ニーズを効果的に満たしていることが確認された。

今後、同様の課題を抱える他地域への横展開も期待できる運行形態であるとしている。



（かなみちゃん・楯っちゃん丸タクシー）

若者定着促進事業

（大学生、中高生を対象とした地元定着に向けた取組み）

学生参加型のワークショップや地元企業の職業体験等を通して、若者の地元に対する誇りと愛着、職業観を醸成して地元定着に繋げる取組み。

未来をここで。若者活躍促進プロジェクト事業

◆未来創造ワークショップ（令和７年度年３回開催）
若者・女性を対象とした「山形市で働き・暮らす」ビジョンを可視化し、解決のアイデアを探求するワークショップ。

◆未来をひらく人と企業
市内企業に就労した若手社員へのインタビュー記事を「広報やまがた」に掲載して、市内企業の魅力を広く情報発信する。

ふるさとキャリアの種まき事業 【令和7年度事業実績】

◆しごと学び出前講座
中学生を対象に、地元企業で活躍する方々とのふれあいを通して、将来への職業ビジョンを育成する出前講座を実施。
講話とワークショップの内容は冊子にまとめ、全校で活用する。

実施校	開催日	対象	参加企業
山形市立第三中学校	9月10日	１年生 170名	ミクロン精密㈱、㈱ウンノハウス
山形市立第九中学校	9月11日	２年生 157名	東ソー・クォーツ㈱、㈱ヤマザワ

未来創造ワークショップ





しごと学び出前講座

公民連携による女性人材育成事業

まち、わたし、きらめくWomen's Campus 山形

山形市で生活する女性が抱える悩みや課題を自ら解決することを目指す探求型プログラム。
地域で活躍する**女性リーダーの育成**と**若年女性の地元定着**を進めるとともに、**市内企業による好事例の創出**を目的とする。

「ロールモデル企業創出事業」

■市内企業への人材育成専門家の派遣

■リーダーとしての資質向上プログラム



「Girl up！ミライ×わたし スタートアッププロジェクト」

■**女子高校生を対象**とした地元を知り、自分の将来を考えるためのプログラム





「女性活躍推進プロジェクト支援事業」

■女性活躍など、地域課題の解決を目指す活動に対する支援





●取組の共有・発信

●市内企業との連携を強化
●若年女性のエンパワーメント
●市内での自主的活動促進

地域・企業の持続的な発展を促し、「性別に関わらず多様な人材が活躍するまち」の実現を目指す

山形市さくらんぼトレーニングファームの整備・運営



「さくらんぼ」の生産体制を守るため「山形市さくらんぼトレーニングファーム」を整備し、未来の生産基盤の維持を図り持続可能な農業の実現を推進する。

基本コンセプト

◎労働力の省力化、気候変動に対応するための新たな生産技術の習得

・省力仕立て、低木化による生産の効率化の実習
・防霜対策の散水氷結法、高温対策の遮光資材導入等の実証・実習
・スマート農業技術の活用

◎持続可能な農業を目指した既存園地の活用

・遊休農地の活用による実習園地の整備
・ベテラン生産者の技術継承を目的とした既存園地におけるサテライト方式の実習
・居抜き園地の継承を目的とした地域実習と園地継承を行う体制の整備

◎他機関・地域との連携による取組みの実施

・研修機関、指導機関等との連携、地域との協力体制の確立
・果樹園地の継承に取組む自治体間における情報の共有

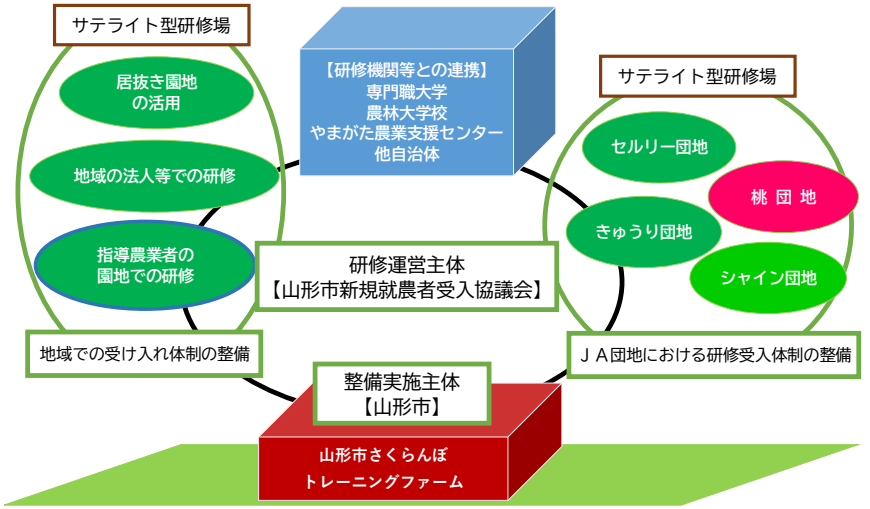


（研修用雨除けハウス）



（研修の様子）

運営のイメージ



取組内容

・令和７年度⇒施設整備、研修生募集（地域おこし協力隊、新規就農希望者など）
・令和８年度⇒研修生受入れ開始（２０代男性　１名）

中心市街地の取組（歩くほど幸せになるまち）



霞城公園の整備（～令和15年度予定）

御殿堰や文翔館の景観を活かした取組を推進

コミュニティサイクルの設置：





御殿堰の延長整備



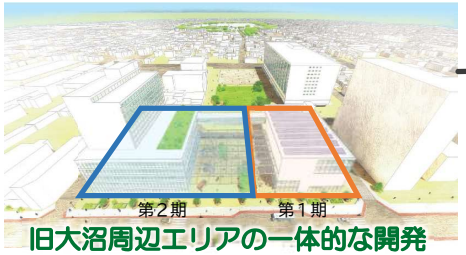
新市民会館の整備（～令和13年度予定）



新たな済生館の整備



山形銀行新本店ビル
（令和8年7月オープン）



旧大沼周辺エリアの一体的な開発
（第１期：～令和１６年度予定）
（第２期：～令和２２年度予定）

消雪道路整備
予定路線



旧千歳館エリア・リノベーション
（～令和８年度）



「日本一の観光案内所」の整備
（～令和11年頃予定）



公共空間の活用：　で示すエリア

来街者の集客や道路空間を活用した取組を推進

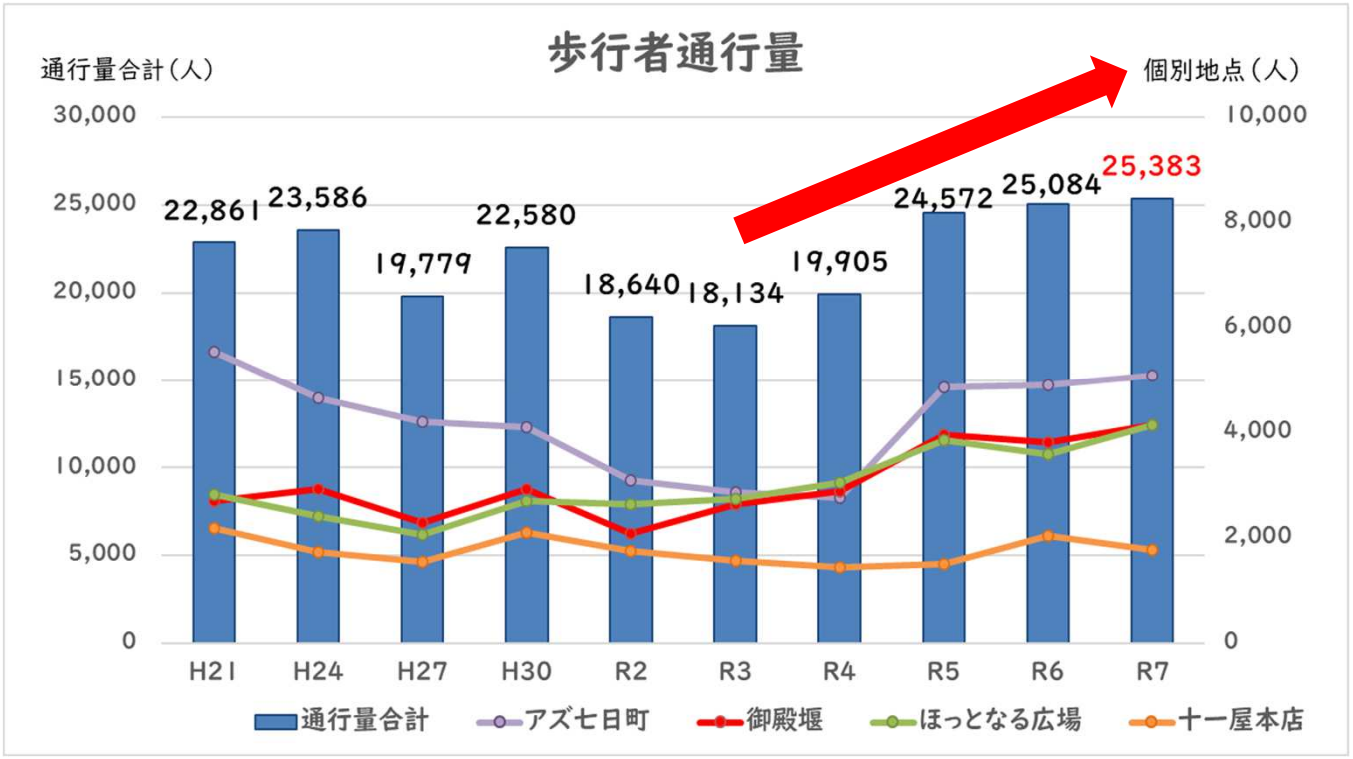


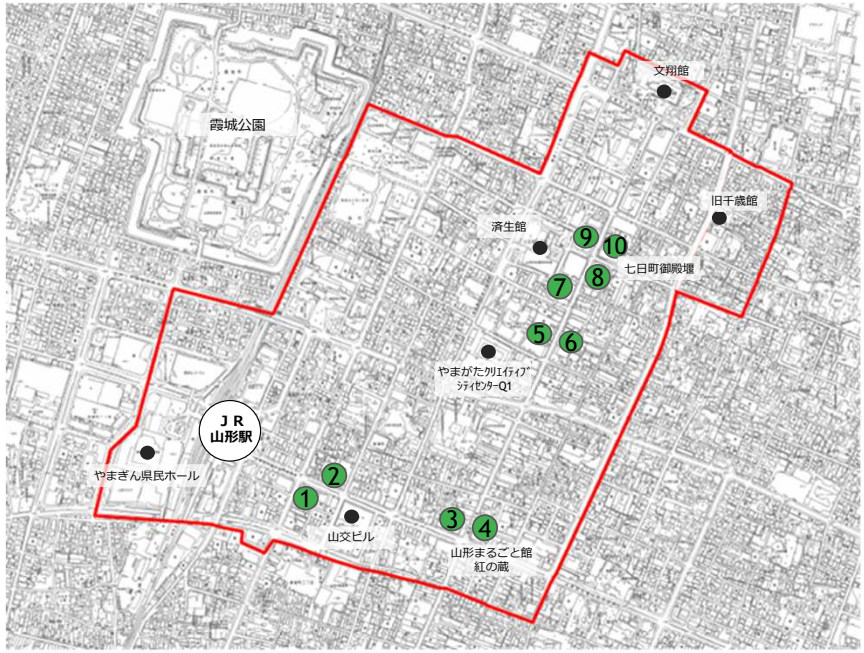
やまがたクリエイティブシティセンターＱ１の活用



粋七（いきなな）エリア整備事業
（～令和9年度予定）

中心市街地の歩行者通行量





● 調査地点

粋七エリア整備事業　（粋な町 七日町）

小径と余白のある町
御殿堰の整備
御殿堰沿いの小路と広場の整備による回遊性と滞在性の向上
歴史ある御殿堰のせせらぎを感じるられる空間の形成

料亭文化の活用
料亭文化と伝統・風情が感じられる建築物の活用


水の町屋
七日町御殿堰

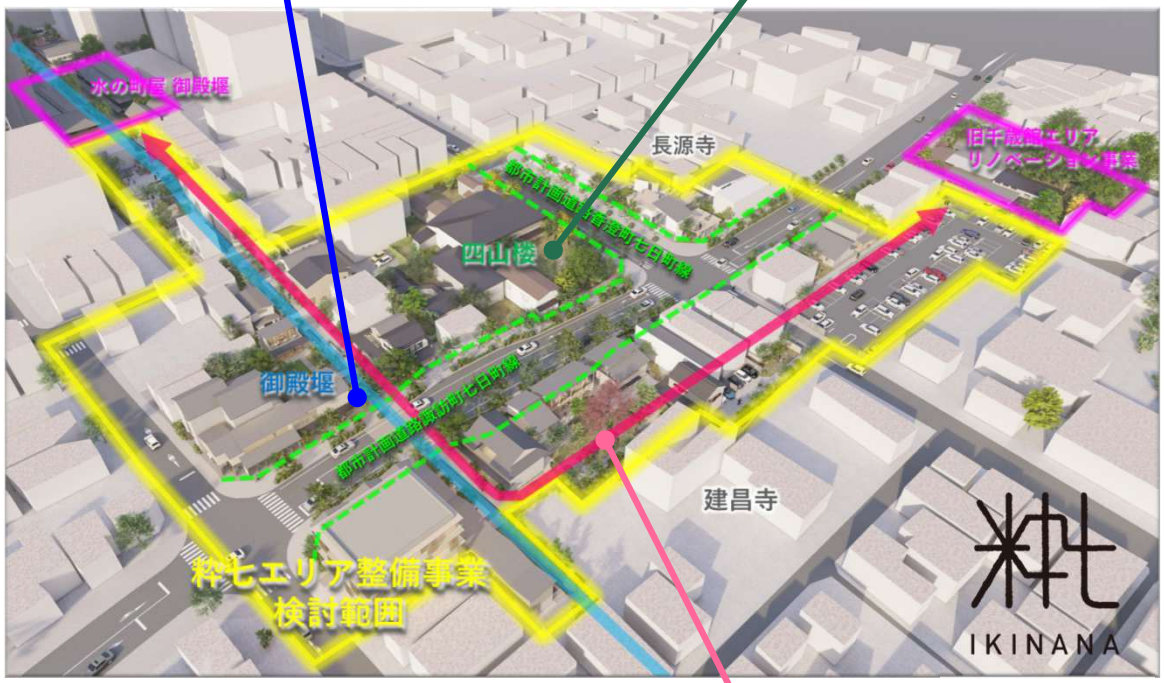
粋七
都市計画道路と併せて
土地区画整理事業を実施

御殿堰～旧千歳館まで
小径整備による回遊性向上

旧千歳館エリア・
リノベーション事業
(仮称)花小路公園



◆御殿堰（水のせせらぎ空間づくり）
◆四山楼（料亭文化の活用）



◆小径と余白のある町（回遊性と滞在性の向上）


御殿堰イメージ


小径・広場イメージ


旧料亭　樹齢300年エドヒガン桜の活用

The Japan Times Destination Region2025

英字新聞ジャパンタイムズが世界に紹介したい日本の自治体を認定・紹介する第１回目の「The Japan Times Destination Region2025」に山形市が選定されました！







■The Japan Times Destination Region

ジャパンタイムズ（The Japan Times Sustainable Japan Network）が、藻谷浩介氏をアドバイザーとして迎え、以下の3つの視点から、持続可能な地域を実現するためにさまざまな取り組みを展開している自治体を認定、紹介するものです。

1	2	3
次世代に伝える努力	**地域資源を活用**	**課題解決へ貢献**
地域の文化的・歴史的背景を大切にし、次世代に伝える努力をしている	地域資源を活用した持続可能な地域経済・コミュニティのあり方を追求している	これらの取り組みが日本・世界の地域課題の解決に貢献する可能性がある

■山形市が選定された理由

人口25万人規模の都市でありながら、山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催や日本で唯一のユネスコ創造都市ネットワーク映画分野への加盟、東北芸術工科大学と連携し文化財をリノベーションした「やまがたクリエイティブシティセンターＱ１」での取組など「文化創造都市」であると同時に、独自の食文化や地下水の熱源としての利用、教育や子育て支援、「歩くほど幸せになるまち」をコンセプトとしたまちづくりなど、文化創造都市の推進に向けた様々な取り組みが総合的に評価されました。